

## 脳梗塞との関連が疑われた心臓粘液腫の3症例

◎大谷 奈央<sup>1)</sup>、積田 雅央<sup>1)</sup>、菅原 芳子<sup>1)</sup>、森田 寛子<sup>1)</sup>、小倉 沙奈絵<sup>1)</sup>、木間 夕子<sup>1)</sup>  
日本赤十字社 医療センター<sup>1)</sup>

【はじめに】心臓粘液腫は成人の原発性心臓腫瘍の中で最も多く認められる良性腫瘍であり、多様な形態を呈し、脳梗塞などの塞栓症状や、拡大すると血流障害を起こすと考えられている。本発表では、2019年8月から2021年3月の間に、当院で超音波検査によって発見または確認された心臓粘液腫3例を対象に、エコー所見、臨床背景、その他検査データを比較しながら、一部文献的考察を加えて報告する。

【症例1】83歳、女性。夜間就寝中の息苦しさで持続する呼吸困難感を主訴に、当院救急外来を受診した。既往歴に多発脳梗塞あり。経胸壁心エコー検査（TTE）では、左房内心房中隔に付着し、拡張期に僧帽弁に嵌頓する47×30mmの腫瘤性病変を認めた。心臓腫瘍による心不全の診断により入院となり、入院9日目に腫瘍摘出術が施行された。腫瘍は病理組織診断の結果、心臓粘液腫と診断された。

【症例2】45歳、女性。体全体に力が入らず、左顔面及び左上肢にしびれを自覚したため、当院救急外来を受診した。

頭部MRIにて、右多発脳梗塞を認め、加療目的で入院となった。入院後、原因精査のために依頼されたTTEで、左房内心房中隔に付着する30×16mmの可動性のある腫瘤を認めた。入院4日目に腫瘍摘出術が施行され、腫瘍は病理組織診断の結果、心臓粘液腫と診断された。

【症例3】61歳、男性。急に右手に力が入らなくなり、かかりつけである当院脳神経外科を受診した。頭部MRIにて、左前頭葉にまばらに点状の脳梗塞を認めた。今回が4回目の脳梗塞であった。入院後、原因精査のために撮像した大動脈造影3D-CTAにて、左房内に腫瘤を認め、その後の経食道心エコー検査でも左房内に3cm程度の可動性のある腫瘤を認めたため、腫瘍摘出術施行となった。腫瘍は病理組織診断の結果、心臓粘液腫と診断された。

【考察】3例すべての症例で脳梗塞を認めており、その原因として心臓粘液腫との関連が疑われた。脳梗塞原因精査のTTE依頼がある場合には、血栓だけでなく、心臓腫瘍の存在も念頭に置いて慎重に検査を行うべきだと考えられた。

連絡先 03-3400-1311